

第三八回世界CFO会議

九月一〇日から一二日の三日間、パレスホテル(東京・千代田区)にて第三八回世界CFO会議が開催され、総勢二〇〇名の財務幹部が参加した。今回のテーマは、「日本発の新しい経営財務マネジメントを目指して」。日本で初めての開催となる世界CFO会議は、世界の財務幹部の団体が組織するIAFFE(国際財務幹部協会連盟)に加盟する各国で毎年開催しているもの。今回の会議にも、中国、台湾、韓国、フィリピン、フランス、ドイツなど海外からも約八〇名が参加した。

米国のサブプライム問題に対する不安が世界的に拡がりをみせたタイミングで開催されたこともあり、グローバルセッションとTの進化が資本市場にもたらした未知のリスクを今後どのようにマネージするのか、初日に開催されたレセプションでも早速このテーマが話題となった。

二日目は、IAFFE会長のヘルムート・シュナーベル氏の開会挨拶に続き、日本CFO協会理事長の行天豊雄が「これからの経営環境とリスクマネジメント」と題し、本会議のオープニングとしての問題提起と資本市場で起きてい

るさまざまなリスクマネジメントについての本質を概観した。その後、「グローバルセッションに挑む経営財務の今後」を主なテーマに、三浦良造氏(一橋大学大学院教授・渡辺裕泰氏(早稲田大学大学院教授・元国税庁長官)、船橋晴雄氏(シリウス・インスティテュート代表取締役)、渡邊達雄氏(IBMビジネスコンサルティングサービス執行役員パートナー)、松田千恵子氏(ブーズ・アレン・アンド・ハミルトンエグゼクティブ・ディレクター)、ファールガル・マクギネス氏(マーサー・ヒューマン・リソース・コンサルティング取締役プリンシパル)による講演が行われた。

最終日の二日は、経済・経営評論家の金児昭氏(信越化学工業顧問)のオープニング講演をはじめ、「経営を支えるCFOの役割と経理・財務のあるべき姿」をテーマに、川上徹也氏(松下電器産業常勤顧問)、長友英資氏(東京証券取引所顧問)、西川郁生氏(企業会計基準委員会委員長)、末田武寛氏(日立インターナショナルトレジャリ社長)長)、米野宏明氏(マイクロソフトニアプロダクトマネージャ)、アルマン・アンジェリ氏(グラント・ソントン・フランス事業開発統括責任者)による講演が行われた。アルマン・アンジェリ氏は、来年開催予定のフランスの協会D



FCGの会長でもあり、来年度に向けたバトンタッチをして会議を終えた。

夜には明治記念館(東京・港区)に場所を移し、ガラ・ディナーが開催された。三日間の会議の慰労会として、主に海外からのゲストを中心に約一〇〇名の方が参加した。浅草や日光などの名所観光をされていた同業者の方もドレスアップして参加したほか、来賓に福岡年勝氏(前日本銀行政策委員会審議委員)、藤沼亜起氏(前日本公認会計士協会会長)、伊藤進一郎氏(元住友電気工業副社長)らを迎え、食後は日本舞踊を楽しんだ。

「世界CFO会議講演録2007」予約受付中!

第三八回世界CFO会議の全講演を収録した「世界CFO会議講演録2007」を来年(二〇〇八年)一月初旬に発行予定です。ご購入をご希望される方は二月二五日(火)までに日本CFO協会サイトでご予約ください(予約販売のみに限らせて頂きますので期限を過ぎてからのご購入はできませんことご了承ください)。なお、日本CFO協会法人会員様には一部無料進呈致しますほか、日本CFO協会の会員専用サイトでは全講演録をご覧頂くことができます。

「世界CFO会議講演録2007」
 定価：一、二六〇円(送料・税込)
 ご予約は www.cfo.jp
 受付締切：二月二五日(火)

IAFFE 定例総会

世界CFO会議前日の九月九日、パレスホテル(東京・千代田区)にて、IAFFEの定例総会が開催された。会合では、各国の一年間の活動についての報告をもとに質疑応答が行われたほか、各国のCFOのアジェンダを模索することを目的に「IAFFE 各国で実施している「CFO スタディー」の報告や今後の展開について議論が繰り広げられた。

教育プログラムに関する情報支援も以前より熱心に行われており、アジア地域のみで資格体系の方向性が過去に議論されたこともある。日本CFO協会が経済産業省の委託を受けて開発したFAS S検定(経理・財務スキル検定)の事例は、各国の関心を集め、今後の海外展開にも期待を抱かせるとともに、世界の経理・財務の現場で起きているコンプライアンス強化の流れと業務改革のプレッシャーの深刻さが伝わってきた。来年は、一二月にパリ(フランス)で開催の予

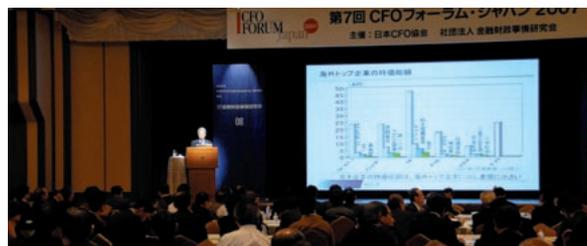


定である。

CFOフォーラム・ジャパン

一月一四日(水)、帝国ホテル(東京・千代田区)で第七回CFOフォーラム・ジャパン二〇〇七が開催された。CFOフォーラム・ジャパンは、日本CFO協会が社団法人金融財政事情研究会と共同で開催しているもので、今年で七回目を迎える。今回のテーマは「グローバル化する経営財務とCFOの挑戦」。基調講演では高橋進氏(日本総合研究所副理事長)よりサブプライム問題について、マクロ的見地から今後の資本市場や世界経済への影響についての見通しを解説頂いた。

CFO講演では、平田正之氏(NTTドコモ代表取締役副社長)より世界に広がっているステークホルダーへのアカウンタビリティを含めてCFOがとるべきリスクマネジメント戦略について講演頂いた。



また、昼食会ではゲストスピーチとして、この度日本発としてISO化(国際標準化)の提案をした「マテリ

アルフローコスト会計」について、経済産業省委託環境管理会計国際標準化対応委員会委員長の國部克彦氏(神戸大学大学院教授)にご講演を頂いた。マテリアルフローコスト会計は、環境対応と原価低減を同時に追求できる新しい経営管理手法で、主に企業の生産管理部門や環境部門の分野として位置づけられていたものであるが、これから高まる環境負荷について関心の高い財務幹部にもご紹介することになった。

上場会社のCFOをはじめとしたエグゼクティブ幹部に参加者が限定されたエグゼクティブ・プログラムを含む一五の専門セッションが開催され、経営管理に関するさまざまな手法やテクノロジが紹介された。エグゼクティブ・プログラムでは、前トヨタ自動車副社長の荒木隆司氏(あいおい損害保険取締役会長)より最近の企業不祥事の背景として企業のミッションが揺らいでいるとの問題提起を頂き、泉谷裕氏(村田製作所顧問)からはCSRを含めた環境対応と経営のあり方について、昼食会で講演頂いた國部教授を講師に招いて解説を頂いた。

夕方にはM&A、資本市場法制のそれぞれの第一人者である佐山展生氏(GCAホールディングス代表取締役)、上村達男氏(早稲田大学法学部長)に、M&A市場の動向と今後の展望、そして資本市場改革に残された課題についてご講演頂き、五〇〇名を越える参加者は最後の講演まで熱心に聞き入った。



高橋進氏
日本総合研究所副理事長



平田正之氏
NTTドコモ
代表取締役副社長



國部克彦氏
神戸大学 大学院教授



佐山展生氏
GCAホールディングス
代表取締役



上村達男氏
早稲田大学法学部長

IGTA定例総会

世界のトレジャリー(資金・財務)の協会が組織するIGTA(国際財務協会連盟)の定例総会が、今年は一月一〇日(土)に香港のペンシユラホテルで開催された。今年発足した香港の協会が主催するフォーラムと同じタイミングで設定されたこともあり、前日の香港金融管理局でのレセプションには香港の財務幹部たちが大勢集まり、世界各国の代表たちとの交流を深めた。

IGTAでは、これまで世界の格付け機関に向けて公正な格付けを求める意見書を発信したほか、IGTA認定の教育プログラムの策定など世界のトレジャリーマーケット発展に向けて活動も活発化している。

今年もPWCやJPMorganから各種テーマの専門家が参加するなど、各国の協会が取り組んでいる課題について、の議論が白熱した。

